

勝利を与えてくださる主

詩篇144篇

わが岩なる主はほむべきかな。主は、いくさすることをわが手に教え、戦うことをわが指に教えられます。(1)

「ダビデの歌」という表題が付いている詩の中には、ダビデ自身が作ったものではなく、後世の人々がダビデの生涯や信仰を思い起こしながら作ったものが多くあります。

この詩の前半は同じダビデの歌である一八篇や八篇から取られた言い回しが多く使われています。主をほめたたえた後、「主は、いくさすることをわが手に教え、戦うことをわが指に教えられます」と詩人は語ります。多くの敵との戦いにおいて、主は常にいかに戦うべきかを教え、勝利を与えてくださったと振り返るのです。ある人々はこの部分はダビデがゴリヤテと戦ったときのことを背景にしているのではないかと考えます。巨人ゴリヤテの前に、少年ダビデはあまりにも無力でした。けれども主はそのダビデの手に一つの石を与え、それをもつてゴリヤテを打ち倒すように教えられたのです。ダビデが持っていたものは、主なる神の力をどこまでも信じる信仰でした。その信仰のゆえに、ダビデは敵を退けることができました。自らの手や指を眺めながら、勝利を与えてくださった主をほめたたえました。

わたしたちの人生にも多くの戦いがあり、途方に暮れるようなことがあります。けれども主は、主の力を信じて寄り頼む者たちに対してふさわしい戦い方を教えてくださいます。キリスト・イエスの兵卒として、主の力に寄り頼む者たちでありたいと願います。